

# 運営推進会議、介護・医療連携推進会議記録

日時	2024年2月14日(水)14:00~15:30
事業所名	医療生協さいたま生活協同組合 ヘルパーステーションいぶぎ
サービス種別	定期巡回随時対応型訪問介護看護
記録者	望月 佳奈恵
出席者(20名)	ケアセンターきょうどう／勝原様、神根居宅介護支援事業所／栢山様 ほっとみるく／小松様、神根地域包括支援センター／岩淵様 ケアセンターかがやき／内田様・高橋様、ケアセンターすこやか／中武様 老健みぬま／長濱様・田原様、24 芝ケアステーション／山根様・亀谷様 やさしい手三ツ和／藤井様、訪問看護ステーション虹／野内様、 お結び訪問看護ステーション／鈴木様 埼玉協同病院／松島様、ふれあい生協病院／鈴木様 神根地区会長／清水様、戸塚地区組合員／山本様、石川様
会議項目・内容	別紙のとおり
所見・課題・その他	<p>ふれあい会館の第2会議室にて集合し開催</p> <p>【意見・感想】          &lt;在宅復帰(退院・退所・一時利用)&gt;          ●老健、病院、医療関係者          ・他職種やご家族と情報共有をしていけたらと思います。          実際に使っている利用者から、何度も使って対応してくれるサービスをもっと早く使いたかったとご家族からの声が聞かれている。          ・一人暮らし、認知機能低下、施設拒否の入院している患者さんに在宅を視察に入れてこのサービスを相談していきたいと思っている</p> <p>&lt;看護師との連携事例／訪看の提案で利用に至る&gt;          ●訪問看護          ① 息子様を同じ癌で先立たれ気落ちして精神での落ち込みがあった。末期がんということで往診と訪看が入った。不安が大きく少しの心配事で緊急電話が多かった。また、セコムを呼び救急車を呼ぶことになったことがあった。          ヘルパーが間に入り聞き取りすることで不安感を取り除き身体理由である場合専門医療につなげていくことで電話回数増大の負担を軽減できた。          ② 病気になった本人が、障害や認知低下の奥様を支える為に入院しないのでできるだけ在宅をしたいという希望があり、サービス利用となる。状態が良い時期は訪看が訪問する日はヘルパー入らず、と調整していき、ADLが下がるにつれて安否確認から排泄介助も加わり、1日1回から1日2回とヘルパー訪問回数を増やしていった。ぎりぎりまで自宅で頑張り、ご本人の希望で緩和病棟の入院され翌日亡くなられた。</p> <p>&lt;看護師との連携事例／訪看との有効的な分担事例&gt;          ●訪問看護          退院直後は朝夕と痰吸引目的で訪問。安定した時点で夕方ヘルパー訪問に切り替え。電話が頻回だったが、ヘルパーが来るので待つように伝え、本人も納得され電話対応で済んだ。          ●ケアマネジャー          ・一人で居たい、自宅に帰りたいという希望が強かった。立位や歩行できないベッド生活が自宅で暮らせるのか不安があったが、行政等と相談しながら自宅で</p>

の生活が実現できた。電話頻回、妄想もあったが自宅生活から納得しての入院、入所が実現できた。

- ・プラン変更が頻回な場合、臨機応変に対応するサービスは大変助かる。
- ・まだ使ったことがないが、喀痰吸引必要な利用者に対するサービスで有効なのか感じるので利用したいと思う。
- ・連携がしやすく利用者との安心感につながる良いサービスだと思っている。

<川口市定期巡回連絡会参加している方>

●訪問介護事業者

- ・サ高住併用でのサービス。定期巡回は周知が足りないという状態は何年も続いている。需要の誤解もある。これからも頑張る
- ・定期巡回について日々勉強。自宅での生活をぎりぎりまで支えられるように精進したい。
- ・こうなったら施設しかないという固定概念が強いイメージがある。寝たきりで身寄りがない高齢者も生活できている。ご本人が家にいたいと思っているなら、どこまでも支援していきたいと思っている。
- ・川口診療所内にヘルパーステーションがある事で居宅と看護師が連携できる強みとなっている。看護師さんからの情報が助かっている。
- ・診療所と看多機、居宅、訪看もあり連携を強めていかななくてはならないに加え3事業所も連携し定期巡回を広めていきたい。人員確保も共有したい。
- ・法人内では一番大きい事業所で32名介護職員がいる。介護職が地域の限界値を支えていると思っている。定期巡回をどのように還元できるのか話し合っていきたい。

<地域活動への参加>

●地域の有職者の方々

- ・民生員52名いるが、コロナ禍終了した時点で20名程新しくなった。地域で活動している中で独居、保護拒否の方が多い。地域の人が心配している状況がみえる。医療関係よりサービスについてアドバイスをしてくれると受け入れやすいのかなと思った。どことも関わりがなく一人住まいの人が姿みえないとどうなったのか不安視されるのでこのサービスについては定例会などで皆に話していきたい。
- ・定例会で興味を持ってこの会に出席した。最初の申し込みから説明して欲しい。終末期というがその時に出くわした時には家で死んだら大変、警察が入って大変よと世間話が多い、終末期ではそのような対応になるのか聞きたいと思った。→質問に対しいぶきや地域包括／岩淵様より簡単に説明
- ・一人暮らしで元気だがいつ何があるかわからない、事業所の活動がよくわからない、近所の人の子供がわからないのは寂しい、とにかく自分で活動し元気でいようと思う。
- ・障害児童が多く閉鎖的なので、居宅の底力をみせてもらいたい、地域の居宅が減り困っている。民生委員の勉強会等の協力をお願いしたい。

<総評／所長>

支える側の固定概念はこれから変えていかななくてはならないと感じた。介護報酬改定に伴い、ヘルパーの質の向上を目指し開かれた事業所を目指し、地域住民の方々々と歩んでいきたい。

以上